

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	65	学校名	県立筑波高等学校					課程	全日制		学校長名		鈴木 恒一				
教頭名	石塚 武志										事務（室）長名		栗原 徹				
教職員数	教諭	27	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	7	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	2	技術職員等	6	計	49
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科			37	28	43	38	40	36	－	－	120	102	9			

2 目指す学校像

地域に支えられ、地域を支え、地方創生に貢献できる人財を輩出する学校
【 実 践 目 標 】正しい判断 自主的行動
【育てたい資質能力】他者とかかわり協働する力 自他を尊重し思いやる心 粘り強くやり遂げる力

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○ 地域社会に目を向け、自己を高めながら社会に貢献できる力 ○ 自己の課題を明確にし、主体的・意欲的に行動する力 ○ 地域の人々と関わり、協働的に粘り強く挑戦する力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○ 総合的な探究の時間「つくばね学探究」を基盤として、地域と連携しながら探究し、主体的に自己の進路を切り拓く学習活動の実践
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○ 学びの意義を見出し、日常での生活を前向きに取り組むことができる生徒 ○ 地域社会の一員として積極的に社会と関わり、自己の将来を見つめながら学校生活を送れる生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎学力を定着させるために、習熟度別授業や少人数授業、単元テストを実施したり、学習内容の振り返り活動を行ったりするなど、段階的な学習形態が確立している。また、進学希望の生徒に対しては、学力向上のために一人ひとりの興味・関心に応じて個別支援を実施している。	学習意欲や学力の個人差が大きいため、教員の授業改善と個に応じた学習指導の工夫が必要である。特に、上級学校への進学を叶えるとともに進学者数の増加を目指し、「つくばね学」に力を入れるとともに、個別の学習支援体制の充実を図る必要がある。
進路支援	生徒の希望進路が多様化している。進路実現のために、ハローワークと連携することで積極的に求人情報を提供したり、定期的に進路ガイダンスや進路別見学会を実施したりしている。また、進学希望者に対しては、外部模試を取り入れながら、基礎的内容から発展的内容までを丁寧な指導している。	早期からキャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育むことで生徒の就職活動への意欲を高めるため、「キャリア・パスポート」等の活用の充実が求められる。また、進学支援については、大学入試の選抜方法について研究し、本校としての個に応じた指導・支援体制を確立する必要がある。
生徒支援	基本的生活習慣の定着、規範意識高揚を目的としたマナーカードを導入から 13 年が経過し、授業態度、服装容儀、日常生活等の改善が見られている。また、「Shihou Card（至宝・紫峰カード）」導入により、ほめる指導、生徒の意欲を引き出す取組も 12 年目を迎え、定着しつつある。	校内外に関わらず、規範意識を高め「自主的行動」のできる生徒を育成するために、「つくばね学探究」や学校行事等を通して内面的な成長を促すことが必要である。
特別活動	学校行事については、生徒主体の運営が行われている。また、現在活動中の部では、弓道部が関東大会以上の出場実績をもっている。地域のイベント等に対しては、ボランティア活動に参加する生徒が多い。	歩く会や百人一首大会などの伝統的な学校行事を継続することの意味を理解することで、地域への愛着や愛校心を養う。
働き方改革	教職員数は少ないが、業務を見える化することで役割分担が明確化し、組織力の向上が見られる。また、会議等に I C T を活用することで、組織的業務の軽減につなげられる。	部長、副部長を柱に、組織的な業務遂行に取り組むとともに、I C T の活用により教育活動の効果を低減させることなく、働き方改革を推進していくことが必要である。

5 中期的目標

1 学習指導要領を踏まえ、きめ細かな学習指導を徹底すること、生徒の学習に対する興味・関心を引き出し、進学率を向上させる。
2 生徒に「正装」という概念を身に付けさせ、正しい制服着用の意義を理解させる。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用をとおして職員の特別支援教育に関するスキルアップに努めるとともに、「心の教育」の充実を図る。
3 大学等と連携するなど進学支援の充実を図り、四年制大学進学者を全卒業生のうち 30%以上を目指す。進学実績を高めるためには、上級学校の魅力や受験の仕組みを伝える機会を設けるとともに、学力を向上させることが不可欠であるため、個に応じた指導体制に加え組織としての指導体制の強化を図る。
4 部活動を精選するとともに、複数の顧問を適切に配置するなど体制の見直しを図ることで、持続可能な活動を実現する。
5 組織力の向上及び I C T の活用により、業務の軽減を図り、働き方改革を進める。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
I 基礎学力の確実な定着と進路支援の充実	① 学校設定教科「つくばサポートタイム（T S T）」や習熟度別授業、少人数授業の積極的な実施により、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るとともに、就職のための社会人基礎力の向上に努める。 ② 自己の適性理解に向けた進路講演会の開催、「進路の手引き」や関係教材等を活用したL H Rを計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。
II 生徒支援の充実	① 生徒や保護者に学校の指導方針を伝え、学校と家庭が協力して、基本的生活習慣の確立に努める。 ② 「マナーカード」及び「Shihou カード」を効果的に活用し、生徒の自己管理能力や自己肯定感を高める。 ③ 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見に努め、組織として迅速に対応する。 ④ 教職員自らが人権意識を身に付け、生徒理解に努め、生徒指導のスキルアップを図る。 ⑤ 特別支援教育に関する理解を深めたり、カウンセリング的な相談スキルを高めたりすることで、生徒の自立を支援する。 ⑥ 学校行事やボランティア等を通して責任感、自立心、忍耐力を養い、自主的に活動するリーダー的人材を育成し、学校の活性化を図る。
III キャリア教育の充実	① 2年生におけるインターンシップ（希望制）や「つくばね学探究」を柱に、3年生では「つくばね学探究」で深化を図る。また、「キャリア・パスポート」等の活用をすすめることにより、キャリア教育を一層推進する。 ② 先を見通した体系的な進路指導を行うとともに、保護者へ進路情報を積極的に提供し、進路実現に向けた取り組みへの理解と協力を得る。 ③ 各大学・短大の情報を整理し、進学意識の向上を図る。また、デジタル求人票を活用することで、就職内定率 100%となるよう、就職支援を充実する。
IV 地域や異校種との連携	① 地域の風土や自然及び教育力を生かす「つくばね学探究」をさらに充実させ、2年生及び3年生全員による体験的な学習活動を実施し、本校の目指す育てたい資質能力の育成を目指す。 ② 地域の義務教育学校訪問や大学と連携した百人一首大会等の伝統行事を行うことで、生徒に愛校心や郷土愛をもたせるとともに、地域を担う人材の育成に努める。 ③ 中学校や義務教育学校と緊密に情報交換を行うことにより、信頼関係を構築する。 ④ つくば市との連携を積極的に図り、地域に根ざした高校として地域に貢献する。
V 働き方改革の実現	① 各学年及び各部において、副主任が機能する組織づくりによって組織力を向上させ、働き方改革の実現を目指す。 ② 教育的効果を低減させることなく、会議、打ち合わせ等の業務の精選や実施方法の改善を図る。
VI 授業の改善	① 電子黒板やタブレット等の積極的活用と学び合いなどを通して、生徒の理解力を高め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ② 教員相互の授業参観や意見交換等を積極的に行い、個々の教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲を喚起する。 ③ 生徒による授業満足度 75%以上を目指す。